

水無月俳句・短歌集

みなみうわ俳句会

菜の花の絨緞漁村尽きるまで
春の息ととのえている山桜
ビブラート利かせ鶯鳴きやまず
陽炎やしまなみ海道ゆれ止まず
山々は桜々の過疎の里
小綬鶏に返事しており一人住む
陽炎や白きヒールの遠ざかる
春寒や澄みたる鏡水張り田

御荘俳句会

乾きたる音のして竹皮を脱ぐ
農避けし農に癒され老いの春
語らいの続く海まで春日傘
真新の石罅置かれ薄暑かな
春惜しむ淋しくなれば本を買ひ
葉桜や訪ふ人もなく山の寺

檳榔子

泊舟の潮ひたひたと春の闇
一天をともし谷間の遠桜

はじめまして。赤ちゃん。

(4月受付分)

地区名	子の名	保護者
城 辺 甲	山 中 斗	己 己
城 辺 甲	安 田 依	辰 洋
緑 乙	大 西 恒	次 吉
中 川	松 岡 弘	秀 也
御 荘 平 城	山 本 愛	優 男
御 荘 平 城	埜 下 皓	朗 平
御 荘 平 城	中 川 瑛	瑛 翔
御 荘 和 口	中 川 莉	お 斗

ご冥福をお祈りします。

(4月受付分)

地区名	亡くなった方	享年
一 本 松	宮 崎 妙子	77歳
深 浦	高 田 ツルエ	102歳
御 荘 平 城	猪 野 玲美	75歳
正 木	平 林 正夫	84歳
城 辺 甲	高 木 シカノ	92歳
赤 水	若 増 元 富美	81歳
柏 崎	上 甲 久徳	88歳
御 荘 平 山	上 甲 ヤコ	69歳
御 荘 平 城	福 田 毅	74歳
御 荘 平 城	入 江 マサヨ	87歳
柏 崎	大 西 都久美	84歳
満 倉	後 藤 キヨ子	95歳
緑 乙	菊 地 重子	87歳
蓮 乘 寺	西 本 清	87歳
御 荘 平 城	倉 田 正彦	66歳
城 辺 甲	岡 田 イマ子	88歳
樽 見	濱 田 しげ重	93歳
御 荘 平 城	光 井 助之	68歳
柏	高 橋 典	62歳
満 倉	光 井 猛	86歳
御 荘 平 城	松 本 巨	75歳
御 荘 平 城	蛇 川 清	91歳
福 浦	山 本 五男	58歳
内 泊	山 崎 夫	81歳
御 荘 平 城	萩 野 咲枝	82歳
平 簪	金 田 キ	83歳
御 荘 平 城	進 敏	59歳
柏	高 川 勝久	77歳
御 荘 平 城	畔 地 饒	85歳
久 良	中 田 トモ	88歳

※上記情報は、広報誌掲載に対して、ご家族等に同意をいただいております。

小島 泰子
濱 初榮
田口ひさ子
長尾 則夫
宮下 峰月
木村 智子
中川千代子
若林八重子

尾崎 松恵

加洲勢津子

山本 金子

吉田モミエ
三好ミキエ

西海俳句会

うららかや孫と車でお買物
日脚伸ぶテレビの旅に地図拡げ
入園児紺の制服黄ぼうし
買物も畑も長子と風光る
土産屋に男が五人春シヨール

新くさの葉短歌会(はこべ)

葉大根の種落としゆくゆつくりと菜ずし作る日を楽しみながら
若者少なき小さな部落の年度常会役員きまらず時間すぎゆく
何時もより早く起床し諏訪の杜のデイサーピスの車待ちおり
帰省のたび線香あげに来てくれる孫は丈伸び大人びてきぬ
突然に彼女を連れて帰るとい息子のメールにとまどうもうれし
久々に明るき声に訪ね来ぬ頼美しき乙女となりて

楠若葉となりの嬰の笑い声
春の闇猫の横切る気配して
目交を音なき宇宙飛花落花
町並みに残る格子戸紅枝垂
花の山車窓に映りどこまでも
山笑う七色の声競いつつ
ポケットに孫とあそんだ春の草

山口 和子
若山 節子
小島 泰子
濱野 康子
山口 薫
若林八重子
吉田 朝子
吉田 久江
利根早智江
吉田 朝子
吉田 笑代
吉田 弘定

倉田美津枝
齊藤トミ子
市川コマエ
長田ハル子
西崎 文恵
前田 充